

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

令和2年8月

鳥羽商船高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(設)高等専門学校設置基準

## I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
2. 所在地	三重県鳥羽市池上町1番1号
3. 学科等の構成	準学士課程：商船学科、情報機械システム工学科、電子機械工学科（平成30年度入学生まで）、制御情報工学科（平成30年度入学生まで） 専攻科課程：海事システム学専攻、生産システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：海事システム学専攻、生産システム工学専攻） JABEE認定プログラム（専攻名：） その他（）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：665人 教員数：専任教員52人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>鳥羽商船高等専門学校（以下「本校」と称す）は、明14年8月に船舶職員養成を目的とした東京攻玉社分校鳥羽商船として創設され、以来130有余年の歴史の中で、設置者が鳥羽町、三重県、通信省、運輸省と変遷し、昭和26年、文部省所轄鳥羽商船高等学校となり、昭和42年6月に国立高等専門学校となった。当初は、航海学科40名と機関学科40名の2学科で発足し、昭和44年度には機関学科を80名とし、2学科3学級の1学年120名体制となった。昭和60年度に機関学科1学級を電子機械工学科に改組し、昭和63年度には航海学科及び機関学科を、3年生で航海コースと機関コースに分ける商船学科と制御情報工学科に改組し、各40名の3学科体制となった。平成31年度、工業系2学科を改組して80名の情報機械システム工学科1学科が発足した。地域課題を解決するPBL(Product Based Learning)チームに1年生から5年生まで所属し、地域産業や文化を理解し、工学的な解決法を提案できる実践的技術者を育成する教育を開始した。また、平成17年度からは、本科に比べより高度な専門教育を教授するため、海事システム学専攻4名、生産システム工学専攻8名の専攻科が設置され、学士の学位を取得できるようになり今日に至っている。</p> <p>本校は、全国に5校しかない商船学科と工業系学科を持つ商船高等専門学校として、伊勢志摩国立公園の中心、自然豊かな鳥羽市に在し、創設以来、我が国の海運及び工業の発展を支える有能な実践的技術者を育成すること、広く地域と社会に貢献することを使命とし、常に社会の求める技術者を養成し輩出してきた。5年（5年半）一貫教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身につけた人材を育てることとし、学科及び専攻科ごとに教育目標をたて、実践している。商船学科では、船長、機関長、航海士、機関士などの海事技術者を、電子機械工学科ではメカトロニクス時代に対応した製造技術の基礎となる機械工学と機械を制御する電気・電子工学の専門知識と技術を身につけた技術者を、制御情報工学科ではシステム開発やシステム統合スキルを身につけた技術者を育成している。準学士課程を卒業した学生の進路は就職が約80%、専攻科あるいは国立大学への進学が約20%となっている。本校創設以来、卒業生は就職希望者の就職率は常にほぼ100%を維持し、その多くは企業の中堅技術者として活躍するほか、企業経営者、研究者や大学・高専教員など幅広い分野で活躍している。</p> <p>商船学科は全国から入学志願者があり、入学者の約半分は県外からの学生である。一方、工業系学科においては近隣地域からの志願者が多く、少子化が進む状況にも関わらず、近隣中学校への広報活動、公開講座や出前授業等を活用して志願する中学生を確保している。本校は、世界で活躍する外航船舶職員を養成する商船系学科を母体としたことから、必然的に国際感覚が養われていた。しかし、社会・経済のグローバル化が急速に進む中で、特に高度な国際化が求められ、国際社会で活躍できる人材の育成に向け国際交流事業を推進している。平成20年、シンガポール・マリタイム・アカデミーと国際交流協定を締結し、大型客船による体験型学習（MELCAMP）への派遣、また本校の練習船を活用した鳥羽丸トレーニングなど双方向交流を展開している。平成22年、ハワイ大学カウアイコミュニティーカレッジと教育、学術に関する国際交流協定を締結し商船系の体験型学習を行っている。その他、ニュージーランド、タイ等に短期間学生を派遣するなど、グローバルな教育活動を実施して学生の国際性の涵養に力を注いでいる。本校では、クラブ活動等の課外活動も人間形成のための場として重要視し、クラブ活動や各種コンテストへの積極的</p>	

な参加を支援し、学生の可能性を引き出す教育指導を行っている。特に近年は学生のコンテストでの活躍が目覚ましく、各種コンテストで全国的に優れた成果を得ている。また、海学祭（高専祭）、体育祭などの各種学校行事では学生会が企画、運営を行い、学生の自主性、協調性などが育まれている。社会貢献の一つである産学官連携活動については、技術相談、共同研究、受託研究により地域の抱える課題等に対応し、地域の発展や活性化に寄与している。地元企業と製品開発された獣害罨の遠隔監視システム、AI を利用した海産物の育成システム情報、電気・電子、機械分野の技術が融合したもので、こうした技術開発には学生も参画して、本校の創造性を育む教育の一環となっている。

## II 目的

### 1. 教育理念

進取・礼譲・質実剛健

### 2. 本校の教育目標

(1) 人間性豊かな教養人となること

幅広い教養と知性を身につけ、判断力があり、礼儀正しく、かつ思いやりのある人間を目指す。

(2) 創造性豊かな技術者となること

確かな基礎学力と専門知識を身につけ、進取の気性と不屈の精神を備えた技術者を目指す。

(3) 国際性豊かな社会人となること

国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、広い視野と行動力を備えた社会人を目指す。

### 3. 高専本科（各学科）の教育目標

#### ・商船学科の教育目標

物流の国際化と船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者として活躍できる専門知識と技術を習得した人材および海事関連産業で活躍できる人材を育成する。

#### ・電子機械工学科の教育目標

機械技術と電子技術および情報技術を融合した電子機械（メカトロニクス）に関する専門知識と技術を身に付けた実践的技術者を育成する。

#### ・制御情報工学科の教育目標

制御情報工学（情報応用システム・組み込みシステムに関する工学）における実践的技術者としての専門知識と技術を身に付ける。

#### ・情報機械システム工学科の教育目標（平成31年より）

情報機械システム工学科は、情報工学、電気電子工学、機械工学を基盤とし、学生自身の個性に応じたカリキュラムを選択することで、地域に貢献し日本の産業を支える実践的技術者としての専門知識・技術を身に付けることを目標とする。

### 4. 専攻科の教育目標

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に高度の専門的学術を教授し、専門領域の幅を拡大するとともに、国際的感覚と広い視野をもって研究・技術開発能力、想像能力を発揮できる実践的技術者を育成することを目的とする。

#### ・海事システム学専攻の教育目標

本専攻の教育目標は、本科席上課程（商船学科航海コースおよび機関コース）および1年間の大型練習船実習で習得した海技技術を基礎に、以下の能力を身につけた新時代の海事技術者に望まれている人材を育成することである。

① 国際的に通用する海事技術者としての高度な能力。

② 国籍、文化、風習の相違を認め合いながら、正しいリーダーシップを取りうる人間としての資質。

③ 状況を正しく認識し、問題を明確化し、それを解決しうる問題解決能力。

④ 環境問題に海事技術者の立場で適切に対応できる見識。

⑤ グローバルな視点のもとで、現実に生活している地域社会の諸問題の解決に自主的に参画しうる社会人としての資質。

・生産システム工学専攻の教育目標

本専攻の教育目標として、柔軟で人間性に富んだ研究開発型創造的技術者の育成を基本理念に掲げる。本専攻は、本科（電子機械工学科，制御情報工学科）課程で習得した基礎工学を基盤に、機械システム、電子・物性、計測制御および情報・通信関連分野の知識を習得し、「①専門分野および複合分野における研究開発能力を向上するための教育」、「②専門分野および複合分野における創造的製作能力を開発するための教育」、「③英語によるコミュニケーション能力を向上するための教育」を教育の三本の柱としている。

具体的な教育目標として次のことを目指す。

- ① 工学の各専門分野に関する基礎知識と応用技術を身につける。
- ② 複合的視点から物事を考える能力とその素養を養う。
- ③ 工学的課題を解決するための実施計画を設定できる能力を養う。
- ④ 計画を遂行し，工学的に考察し，かつ説明する能力を養う。
- ⑤ 技術者としての社会貢献と責任について考える能力を養う。
- ⑥ 論理的な記述力と英語など外国語の読解能力，およびコミュニケーション能力を養う。

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p><b>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</b></p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-1-(1)-01 「研究活動に関する目標が定められていることがわかる資料」</p> <p>資料 A-1-1-(1)-02 「研究活動に関する目的が定められていることがわかる資料」</p> <p>資料 A-1-1-(1)-03 「研究活動に関する基本方針が定められていることがわかる資料」</p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>研究主事を置いて研究活動及び地域貢献に関することを掌理している。組織としてテクノセンターに研究支援部門が設置されており、外部資金の獲得支援を行っている。また、地域連携部門も設置しており、共同研究・受託研究の支援を行っている。各学科から選出された研修主事補が部門長となり実際の活動を推進しつつ、教室系技術職員も支援している。</p> <p>これらの状況把握・指針決定のために、テクノセンターの運営委員会を月に1度開催し、内容について議論し推進している。</p> <p>資料 A-1-2-(1)-01 「研究活動の目的等を達成するための実施</p>

	<p>体制を示す規程(研究主事)」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-02 「研究活動の目的等を達成するための組織がわかる資料(研究主事組織図)」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-03 「研究活動の目的等を達成するための実施体制を示す規程(テクノセンター)」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-04 「研究活動の目的等を達成するための組織がわかる資料(テクノセンター組織図)」</p> <p>資料 A-1-2-(1)-05 「実施体制が整備されていることがわかる資料」</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>学内に設置している設備を Web ページで公開している。研究主事が窓口となり地域や他大学と連携を進めている。さらに、三重県工業研究所と包括連携を締結しており、先方の機材が無償で利用できる。工業研究所の見学会・意見交換会も実施している。</p> <p>資料 A-1-2-(2)-01 「研究体制が整備されていることがわかる資料①(設備)」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-02 「研究体制が整備されていることがわかる資料②」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-03 「研究体制が整備されていることがわかる資料③(工業研究所)」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-04 「研究体制が整備されていることがわかる資料④」</p> <p>資料 A-1-2-(2)-05 「研究体制が整備されていることがわかる資料⑤ (施設見学)」</p>
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>総務課 企画・地域連携係を置き研究活動の支援を行なっている。希望する教員には教育研究経費を配分する仕組みを設け、広く募集している。また、研究費の申請書の書き方や知財に関する講習会を案内・実施している。</p> <p>資料 A-1-2-(3)-01 「研究の支援体制を示す規程 (事務組織)」</p> <p>資料 A-1-2-(3)-02 「教育研究経費の配分方針がわかる資料」</p> <p>資料 A-1-2-(3)-03 「研究支援の事例を示す資料①」</p> <p>資料 A-1-2-(3)-04 「研究支援の事例を示す資料②」</p> <p>資料 A-1-2-(3)-05 「研究支援の事例を示す資料③」</p> <p>資料 A-1-2-(3)-06 「研究支援の事例を示す資料④」</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている</p> <p>□行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>科学研究費をはじめとする外部資金を獲得しているほか、共同研究・受託研究を実施している。科学研究費の申請率は、ここ数年で飛躍的に上昇し98%となっている。</p> <p>資料 A-1-2-(4)-01 「研究活動の実施状況がわかる資料①」</p> <p>資料 A-1-2-(4)-02 「研究活動の実施状況がわかる資料②」</p>

	資料 A-1-2-(4)-03 「研究活動の実施状況がわかる資料③(シリーズ集)」
観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている</p> <p>□得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>地域貢献を柱とした研究推進を行った結果、外部資金獲得テーマも地域と連携したものが増えつつある。三重県と連携し紀州地方における柑橘類の灌水・収量推定や南勢地域における海面養殖の自動給餌、獣害檻の遠隔監視・制御システムなどに取り組んでいる。これらの研究成果の一部は学生と共同で実施しており、卒業研究等のテーマとして教育にも還元している。また、KOSEN4.0 イニシアティブでは、低学年からも PBL で地域課題に参加させ、鳥羽市のゴミ分別サイトの構築、地域住民の地図上での可視化システム、魚観連系としてカゴ漁の遠隔監視・作動システムの開発に取り組んだ。</p> <p>（再掲）資料 A-1-2-(4)-01 「研究活動の実施状況がわかる資料①」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-01 「活動の成果がわかる資料(紀要)」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-02 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料①（スマート農業）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-03 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料②（自動給餌システム）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-04 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料③（ほかくん）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-05 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料④（S 科卒研発表）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-06 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑤（M 科卒研発表）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-07 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑥（I 科卒研発表）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-08 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑦(研究事例)」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-09 「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑧（KOSEN4.0 イニシアティブ）」</p>



	<p>資料 A-1-3-(1)-10「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑨（鳥羽市ごみ分別サイト）」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-11「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑩(とばまっぷ)」</p> <p>資料 A-1-3-(1)-12「研究活動の成果を教育に還元していることがわかる資料⑪(I科コンテスト)」</p>
<p>観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。</li> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点 A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>テクノセンター運営委員会で審議し、各部門、各室の活動状況を把握するとともに、研究活動推進の体制の見直しを図っている。</p> <p>また、年に一度運営諮問会議を開催し、委員からの助言を受けている。</p> <p>資料 A-1-4-(1)-01 「改善の体制がわかる資料①」</p> <p>資料 A-1-4-(1)-02 「改善の体制がわかる資料②」</p> <p>資料 A-1-4-(1)-03 「改善の体制がわかる資料③」</p> <p>資料 A-1-4-(1)-04 「改善の体制がわかる資料④」</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>学内で点検評価委員会を開催し、自己評価を行い改善に努めている。</p> <p>テクノセンター運営委員会で研究の進捗等を確認するだけでなく、科研費の申請書を研究主事補で閲覧し、各教員の研究内容を把握した。研究成果のタイトルのみではなく発表資料を収集することを検討することで、助成金の情報を研究主事補に共有し、該当教員への情報提供を進めている。</p> <p>資料 A-1-4-(1)-05 「具体的な改善事例のわかる資料①」</p> <p>資料 A-1-4-(1)-06 「具体的な改善事例のわかる資料②」</p> <p>資料 A-1-4-(1)-07 「具体的な改善事例のわかる資料③」</p>

	資料 A-1-4-(1)-08 「具体的な改善事例のわかる資料④」
<b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

<b>選択的評価事項A 目的の達成状況の判断</b>
<input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である

<b>選択的評価事項A</b>
<b>優れた点</b>
<p>研究活動の目標を明確に定めており、その研究体制、支援体制が整備され、機能しており目的に沿った成果が得られている。特に地域連携を柱とした研究を進め、すでにいくつかの研究は社会実装を進めている。これらの研究は、教員のみならず、学生の卒業研究やPBL等でも実践されており、全校的に取り組みが可能な状況が整いつつある。</p>
<b>改善を要する点</b>
<p>全ての教員が十分な成果を得られているわけではなく、複数教員でのチームでの研究体制の構築を図るなど、組織的に対応するなどの改善を図っていきたい。</p>

**選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況**

<p><b>評価の視点</b></p> <p><b>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</b></p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 B-1-1-(1)-01 「地域貢献活動等に関する目標が定められていることわかる資料」</p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>学内に「広報・公開委員会」を設置し、公開講座等の実施に関することを所掌している。</p> <p>また、KOSEN4.0 イニシアティブ事業で地域への貢献を柱とし、PBL を通じて学生を交えて地域貢献活動を実践してきた。</p> <p>高等教育コンソーシアムみえの一員として、地域の大学とも連携し地域創生にも取り組んでいる。</p> <p>資料 B-1-2-(1)-01 「方針が策定されていることがわかる資料①」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-02 「方針が策定されていることがわかる資料②」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-03 「方針が策定されていることがわかる資料③」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-04 「方針が策定されていることがわかる資料④」</p> <p>資料 B-1-2-(1)-05 「方針が策定されていることがわかる資料⑤」</p>

<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実施している</p> <p><input type="checkbox"/>実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>学内での公開講座および出張形式の出前授業を広く募集するほか、三重県の依頼に基づきアカデミックセミナーでの講習実施、同窓会（故郷の海を愛する会）と協力し各種イベントを実施している。</p> <p>またイニシアティブ 4.0 では地域連携事例の報告を行っており、地域にとって知の拠点となりつつある。</p> <p>なお、地域貢献のPBL活動や関係する授業を受講すると「三重創生ファンタジスタ」資格が高等教育コンソーシアムみえから認定される。これまでに本校では21人が認定されている。</p> <p>資料 B-1-2-(2)-01 「計画的に実施していることがわかる資料」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-02 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料①」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-03 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料②」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-04 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料③」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-05 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料④」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-06 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料⑤」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-07 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料⑥」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-08 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料⑦」</p> <p>資料 B-1-2-(2)-09 「地域貢献活動を実施していることがわかる資料⑧」</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>認められる</p> <p><input type="checkbox"/>認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）</p> <p>公開講座を実施した際には、アンケート調査を行い受講者の満足度を確認した結果、高い満足度が得られている。</p> <p>鳥羽市との包括連携に基づいて、ゴミ分別サイトの構築イニシアティブ事業では、魚観連系としてカゴ漁の遠隔監視・操作システムの開発に取り組み、日刊工業新聞社が主催</p>

	<p>するキャンパスベンチャーグランプリで中部地区大会、全国大会ともに入賞するなど地域特性を活かしたみえまちキャンパスでは、牡蠣の養殖支援をテーマに最優秀賞を獲得。</p> <p>伊勢市東大淀地区のまちづくり協議会に対してドローンを用いた防災の取り組み支援をして、三重県の防災大賞奨励賞を受賞している。</p> <p>資料 B-1-3-(1)-01 「地域貢献活動の成果がわかる資料①」                  資料 B-1-3-(1)-02 「地域貢献活動の成果がわかる資料②」                  資料 B-1-3-(1)-03 「地域貢献活動の成果がわかる資料③」                  資料 B-1-3-(1)-04 「地域貢献活動の成果がわかる資料④」                  資料 B-1-3-(1)-05 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑤」                  資料 B-1-3-(1)-06 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑥」                  資料 B-1-3-(1)-07 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑦」                  資料 B-1-3-(1)-08 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑧」                  資料 B-1-3-(1)-09 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑨」                  資料 B-1-3-(1)-10 「地域貢献活動の成果がわかる資料⑩」</p>
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する                  □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している                  □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>公開講座の実施状況については、アンケート結果を教務委員会にて確認し、改善点について検討を行なっている。</p> <p>その他、学校点検評価委員会や運営諮問会議でも事例紹介し、委員からの意見を参考に改善を図っている。</p> <p>また、地域貢献事例の多くは学生が外部のコンテスト等で発表し、審査委員からの意見を参考に改善を図って実施を進めている。</p> <p>（再掲）資料 A-1-4-(1)-01 「改善の体制がわかる資料①」                  （再掲）資料 A-1-4-(1)-02 「改善の体制がわかる資料②」                  （再掲）資料 A-1-4-(1)-03 「改善の体制がわかる資料③」                  （再掲）資料 A-1-4-(1)-04 「改善の体制がわかる資料④」                  （再掲）資料 A-1-4-(1)-08 「具体的な改善事例のわかる資料④」                  資料 B-1-4-(1)-01 「改善の体制がわかる資料」</p>

	<p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>公開講座については、前年度の参加者数を見て、新しい分野の内容に変更するなど改善を続けている。</p> <p>資料 B-1-4-(1)-02 「具体的な改善事例を示す資料」</p>
<p><b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>三重県事業として IoT セミナー講師、三重県の市議会議長定期総会での講演、三重県青年・女性漁業者交流大会での講演など、講演を多数依頼されて実施している。</p> <p>また、三重県データサイエンス推進構想、三重県教育委員会の ICT 活用推進協議会、などの有識者会議委員の委嘱を受けている。</p>	

<p><b>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</li> <li><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</li> <li><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</li> <li><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</li> </ul>
<p><b>選択的評価事項B</b></p>
<p><b>優れた点</b></p>
<p>地域貢献活動に関する目的を設定し、出前授業や公開講座をはじめとする学習機会の提供はもちろん、特に IT を活用した技術支援による地域貢献活動を実践している。鳥羽市との包括連携では、ゴミ分別サイトの開発や獣害対策支援など、地域での課題解決に取り組んでいる。また、COC+で実施するみえまちキャンパスの発表会や外部コンテストにこれらの事例を出展し、多くの賞を受賞している。</p>
<p><b>改善を要する点</b></p>
<p>課題はまだ多く、全てを解決するためには、教員・学生のリソースが足りない。また、提供したサービスを定常的に継続するためには事業化等も必要であり、それらの体制整備が急がれる。</p>